

## 代々木ゼミナール本部校 代ゼミタワー オベリスク

正会員 芝 山 哲 也 君  
正会員 篠 崎 洋 三 君  
正会員 井 内 雅 子 君  
正会員 興 石 秀 人 君

新宿高層ビル群の最南端に位置する、専修学校と住居（学生寮）の複合建築である。白い矩形フレームにはめ込まれた透明なファサードは、他のビルに対して巨大な印象こそないが、南新宿の新たなアイコンとして存在感を放っている。

予備校生と現役高校生が入れ替わりで中低層階の教室・自習室を訪れ、さらに 100 名程度の寮生が日夜高層階で生活するという高層建築としては極めて特殊なプログラムである。教室と住戸の間は空中庭園として外部化され、住戸からの一時避難スペースであると同時に、受験生が思い思いにくつろぐアメニティ空間を提供している。

なによりもその外観を特徴付けるのは両妻面の「スーパーウォール」だが、これは積層された異種用途を統合するフレームであると同時に、自重を支える壁柱かつ連層耐震壁として機能する。その他の構造要素はスーパーウォール内にはめ込まれたインフィルとなるが、端正な外観に反してその構成は複雑である。全体の耐震システムは、スーパーウォールと内部のコアフレーム（ブレース構面）で構成される H 型の平面配置となっている。これにより、ガラスファサードに面する柱は鉛直荷重のみを支持する軽快なポストとなり、内部空間のフレキシビリティを高めている。高層階住居部分の荷重は、空中庭園上のメガトラスによって支えられているが、この時生じるトラス固定端の曲げがスーパーウォールの面外曲げとならないよう施工手順を工夫するなど、手の込んだ設計・施工となっている。

平面のうち南側はもっぱら垂直動線用のコアとして使用され、シースルーエレベーターシャフトが日射からのバッファーとなる。決まった時間に学生が一斉に教室を出るため、ロビー空間の不足が問題となりうるが、発注者が「学生が過ごせるスペースとして階段は快適にしたかった」と語るように、陽光あふれる階段室では学生が授業の合間にくつろぐ姿が見られ日常空間の一部として有効に機能しているようである。

ステンレスサッシのエントランス部分、排気スリットを設けた教室部、そして換気口を設けた住戸部分と、素材や構成要素の異なる各部立面を共通のディテール処理でまとめるなど、ダイナミックな構造計画とは対照的な丁寧な意匠が印象的である。

コア+大スパンラーメン+四周カーテンウォールという事務所ビルで確立されたボキャブラリに対し、複雑な空間構成、繊細な意匠とメガストラクチャーとを統合し、高層デザインの新たな可能性を提示したものとして評価された。

よって、ここに日本建築学会作品選奨を贈るものである。